

夜間間断散水によるチャノホソガの三角巻葉の発生抑制効果

チャノホソガの産卵時間を重点に萌芽期～2葉期に間断散水を行うことで、三角巻葉の発生が抑制できる。

背景・目的

- ・茶生産現場では消費者の安全・安心志向に因るため、IPMや有機栽培への取り組みが増加中。
- ・畑かん施設が整備される中、水を活用した害虫被害抑制技術の開発が望まれている。
- ・そこで、巻葉内での虫糞でチャの品質に悪影響を及ぼすチャノホソガの散水による巻葉発生抑制が可能か検討する。

成果の内容

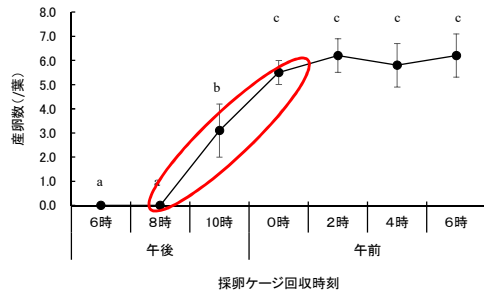


図1 各時刻帯におけるホソガ累積産卵数の推移

表1 生育初期(萌芽期～2葉期)に午後7時～午前1時に間断散水した際のホソガ巻葉発生数(枚/m²)

試験区名	平成28年産二番茶	平成28年産三番茶
散水区	5.1 (44)	0.8 (30)
無散水区	11.6 (100)	2.5 (100)

注) 1. 供試品種はすべて「ゆたかみどり」。
2. () は無散水区を100にした場合の指数。
3. *は5%水準で有意差あり。

産卵時間やホソガの生態を踏まえ、萌芽期～2葉期までの生育初期に夜間間断散水(6時間)することで巻葉の抑制効果が得られる(表1)。



図2 チャノホソガ成虫



図3 チャノホソガの巻葉状況

注) 1. 供試品種は「ゆたかみどり」。
2. 平成27年産秋芽生育期に萌芽期～4葉期まで夜間間断散水(6時間)を実施。
3. ホソガは少発生で1畦約33m分の巻葉数の状況。

導入メリット

○コスト低減効果

薬剤費 △約3.5千円(年間10a当たり)

その他、防除機及び運搬に係る燃料費、労賃等の削減

※但し、畑かん整備地区では水利用料金が必要。

○省力化

薬剤散布時間 △0.9時間(年間10a当たり)

<県農業経営管理指導指標より>

その他、運搬、薬剤調製、水補給等に係る労力の削減

※散水のための各種設定時間は5分程度/1か所。

○イメージアップ

農薬に頼らない ➡ 安全・安心 ➡ 実需者の信頼確保
防除体系の推進

期待される効果

- ・IPMや有機栽培の支援技術となり、「クリーンなかごしま茶づくり」の推進が図られる。

普及対象・範囲
県内茶生産者(畑かん施設整備地区)